彦根城博物館だより 144

Hikone Castle Museum News
2024.3.1

テーマ展

数寄と清風
―井伊直亮の茶の湯と煎茶―

2024年
3/20(水・祝)
～
4/22(月)

唐物鶴首茶入　当館蔵

大きく張った胴部に、まっすぐに立ち上がる頸部を持つ、中国・宋代の作。細長い頸部を鶴の首に見立てた、鶴首茶入の名があります。頸部上辺と胴の釉際に彫り筋が巡り、黒褐色の釉薬には鶉の羽毛のような斑文様が生じています。

天保十三年（一八四二）十二月、彦根藩井伊家十二代の直亮（一七九四～一八五〇）が、小堀家代々所持と伝わる品を「長浜町の者」から一括購入したものの一つであることが、直亮自筆の道具帳「長印物帳」から判明します。同帳では、本作を小堀遠州秘蔵の名器とし、極上々位という最高の位づけをしています。

展覧会情報

特別公開
雛と雛道具
2月17日 ▼ 3月17日

テーマ展
数寄と清風
―井伊直亮の茶の湯と煎茶―
3月20日 ▼ 4月22日

特別公開
国宝・彦根屏風
4月25日 ▼ 5月14日

テーマ展
茶壺 ―武家の美意識―
5月17日 ▼ 6月18日

展示案内

2024年 3月～6月

常設展示 ”ほんもの“との出会い

―彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示―

特別公開　展示室1

2/17（土）～3/17（日）

雛と雛道具

江戸時代、大名家では、姫君の婚礼に際して、調度や雛道具などの道具一式を調えて婚家に持参する慣わしがありました。安政五年（一八五八）、彦根藩井伊家十三代直弼の息女弥千代（一八四六～一九二七）が、高松藩松平家世子頼聡に嫁いだ際にも、大揃えの婚礼調度とともに、雛と雛道具が調えられました。

本展では、弥千代の雛道具を、地元の旧家に伝えられた古今雛や御殿飾りとともに一挙に公開します。桃の節句にふさわしい華やかな雛の飾りをご覧ください。

弥千代の雛道具

◉スライドトーク◉

■日　時　2月17日（土）14時～（30分程度）
■講　師　奥田晶子（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　50名（先着順）

テーマ展　展示室1

3/20（水・祝）～4/22（月）

数寄と清風
―井伊直亮の茶の湯と煎茶―

彦根藩井伊家十二代直亮（一七九四～一八五〇）は、茶の湯や煎茶に造詣が深く、道具や茶書を積極的に収集しています。また、御茶座敷や待合の新築にあたっては、幕府の茶道役に自らが仕様について尋ね聞くなど、積極的に関わり、彦根の槻御殿には煎茶室も建立しました。これら直亮の事跡は、十三代直弼の茶の礎ともなっています。

本展は、井伊直亮の茶に初めて焦点をあてて紹介するものです。

森本文琳茶入

紫泥六角水注

◉スライドトーク◉

■日　時　3月23日（土）14時～（30分程度）
■講　師　髙木文恵（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　50名（先着順）

特別公開　展示室1

4/25（木）～5/14（火）

国宝・彦根屏風

風俗図（彦根屏風）

近世初期風俗画の傑作「彦根屏風」。

舞台は江戸時代、寛永年間（一六二四～四四）頃の京の遊里と考えられています。小袖や髷、煙管や洋犬などの華やかな風俗、毛筋の一本一本に至るまで表現する緻密な筆致、金地を背景とする洗練された構図、琴棋書画や謡曲「芭蕉」など、機知あふれる「見立て」、全体を覆う静寂など、多様な魅力にあふれる世界を堪能ください。

◉スライドトーク◉

■日　時　4月27日（土）14時～（30分程度）
■講　師　髙木文恵（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　50名（先着順）

テーマ展　展示室1

5/17（金）～6/18（火）

茶壺
―武家の美意識―

茶壺は、茶の湯の葉茶を入れる容器です。その堂々たる姿から、織田信長や豊臣秀吉をはじめとする武将達に愛され、書院飾りの雄とも言うべき存在とされました。江戸時代に入ってからも、大名家の格式を示す道具として尊ばれ、重用されました。

本展では、井伊家伝来の茶壺の優品を一堂に展示し、併せて、御用茶師の御茶入日記や茶壺斡旋の際に送られた書状など、茶壺に関わるさまざまな資料を紹介し、その収集と賞翫の歴史をひもときます。

褐釉四耳壺

◉スライドトーク◉

■日　時　5月18日（土）14時～（30分程度）
■講　師　奥田晶子（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　50名（先着順）
＊関連講座を開催します。（3頁参照）

研究余録

金亀玉鶴

井伊家伝来の煎茶道具と湖東焼

湖東焼は、彦根で古着商を営んでいた絹屋半兵衛が、文政十二年（一八二九）に始めたやきものです。天保十三年（一八四二）に彦根藩が窯を召し上げて直営化し、藩窯として発展しました。この湖東焼の中で特に名品と誉れ高いのが、急須や水注などの煎茶道具です。

江戸時代後期、煎茶は、中国の最先端の文化として広く受け入れられ、その流行は大名家にも及びました。井伊家十二代当主直亮（一七九四～一八五〇）も、彦根藩の下屋敷であった槻御殿内に煎茶室「楽々亭」を造営し、煎茶道具の優品を収集するなど、煎茶に強い関心を寄せました。彼の跡を継いだ十三代直弼（一八一五～六〇）もまた自作の急須を残しており、煎茶を嗜んだことが分かっています。

湖東焼 赤絵金彩円文散急須

現在、直亮と直弼によって収集されたと考えられる煎茶道具一〇五件が井伊家に伝来し、当館に所蔵されていますが、実は、このうちの四割を占めるのが、湖東焼の作品です。残念ながら、その大半が大正十二年（一九二三）の関東大震災で罹災し、変色や欠け、歪みを呈した状態です。しかし、湖東焼を主導した井伊家に伝来したこれらの作品は、湖東焼における煎茶道具の制作状況を今に伝える貴重な資料と言えます。

写真の作品は、そのような罹災湖東焼の煎茶道具の一つで、注口と把手が一直線を成し、注口の真後ろに持ち手がついた、後ろ手と呼ばれる形状の急須です。中国清時代の江蘇省南部の陶窯で、名窯と名高い宜興窯で制作された煎茶の注器、「茶銚」を写した形態であり、その中でも、注口がやや下に垂れる「留佩口」に分類される茶銚を精緻に再現しています。

宜興窯の作品は、低火度で焼き締めた無釉陶器ですが、本品は磁胎に施釉し、赤絵金彩の技法で上絵付を施しています。絵付は湖東焼の名絵付師として知られる鳴鳳によるもので、胴全体に円文を散らし、円の内には中国風人物や麻葉、亀甲文を、周囲には唐草文様を隙間無く埋め尽くすように細密に描いています。中国はもちろん、日本でも高く評価され、珍重された宜興窯の器の形態を細部まで丁寧に写し、華やかな絵付を施して仕上げた本品は、名窯として知られた湖東焼の名に恥じぬ優品と言えるでしょう。

本品の絵付に腕を揮った鳴鳳が、湖東焼の藩窯に招聘されて絵付を行ったのは、弘化年間（一八四四～四八）から安政年間（一八五四～六〇）の初め頃までと考えられています。鳴鳳作品の多くは年記がありませんが、弘化二年（一八四五）および嘉永元年（一八四八）の年記の作品が確認されており、どちらも茶心壺という煎茶器です。このほかに、年記はないものの、同様の鳴鳳の煎茶器がまとまって伝来しています。これらから、鳴鳳が、来彦してから早い段階で煎茶器の制作に注力したと推測され、それは、この期の藩主であった直亮の意向によるものと考えられます。

ここで取り上げた急須をはじめ、鳴鳳作品を中心とする湖東焼の煎茶道具の多くは、工夫を凝らした器形に絵付がうまく連動し、その造形を生かすような表現で制作されています。素地を作る陶工と絵を描く絵付師のそれぞれの専門的技術のみではこのような表現は難しく、煎茶への並々ならぬ関心と美術への造詣の深さを備えた人物が、それぞれの職人に具体的な指示を与え、完成に導いたのではないかと想像されます。その人物こそは、最も有力な湖東焼の発注者であり、類い稀な審美眼を以て雅楽器をはじめ刀剣、甲冑、書画、文房具、時計などの様々な文物を収集した大コレクター、直亮だったのではないかと推測されます。

（奥田晶子）

催し

◉講座◉

■日時・演題・講師
①3月9日（土）　14時～15時30分
私の研究最前線
「暮物伺」から見た彦根藩武家奉公人の実像
柴﨑謙信（当館学芸員）
②3月16日（土）　14時～15時30分
私の研究最前線
「井伊直忠の能稽古と梅若家」
茨木恵美（当館学芸員）
③6月1日（土）　14時～15時30分
テーマ展関連講座
「井伊家伝来の茶壺」　奥田晶子（当館学芸員）
④6月15日（土）　14時～15時30分
シリーズ 古文書から読み解く彦根の歴史①
「徳川家康からの手紙」
渡辺恒一（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■定　員　50名
■資料代　100円
■受　付　当日受付（先着順、受付13時30分～）

◉彦根藩資料調査研究会 公開シンポジウム◉

■日時・テーマ
3月24日（日）　13時～16時30分
「殿様と家臣たちの日常
―「側役日記」から見る
井伊家十代直幸の政務―」
■報告者　有坂道子氏（京都橘大学）、三宅正浩氏（京都大学）、渡辺恒一（当館学芸員）
■会　場　当館能舞台正面見所
■定　員　100名
■資料代　500円
■受　付　当日受付（先着順、受付12時30分～）

スケジュール 3月～6月

3月

- 9土 講座 私の研究最前線「「暮物伺」から見た彦根藩武家奉公人の実像」
- 16土 講座 私の研究最前線「井伊直忠の能稽古と梅若家」
- 18月・19火 休館
- 23土 スライドトーク 数寄と清風
- 24日 彦根藩資料調査研究会 公開シンポジウム

特別公開：雛と雛道具 2/17～3/17

テーマ展：数寄と清風 —井伊直亮の茶の湯と煎茶— 3/20～4/22

4/22、24 展示替により一部休室

4月

- 23火 休館
- 27土 スライドトーク 国宝・彦根屏風

特別公開：国宝・彦根屏風 4/25～5/14

5月

- 18土 スライドトーク 茶壺
- 25土 教室 古文書のみかた 初級編①

テーマ展：茶壺 —武家の美意識— 5/17～6/18

5/15・16 展示替により一部休室

6月

- 1土 講座 井伊家伝来の茶壺
- 8土 教室 古文書のみかた 初級編②
- 15土 講座 シリーズ 古文書から読み解く 彦根の歴史① 「徳川家康からの手紙」
- 19水 休館
- 22土 スライドトーク 青根九江
- 23日 教室 古文書のみかた 初級編③

企画展：青根九江 —京で花開いた彦根の文人画家— 6/21～7/23

6/18、20 展示替により一部休室

常設展示“ほんもの”との出会い

＊「古文書のみかた」は事前申込制です。

募集

◉令和6年度 支援スタッフ◉

当館の事業をサポートしていただく支援スタッフを募集しています。

■活動内容
①教育普及事業 小学生対象体験講座の運営スタッフ（体験メニューの準備、指導補助）
②調査研究事業 古文書解読ボランティア（彦根藩井伊家文書等の古文書解読）
＊当館開催教室「古文書のみかた」を修了された方、または同程度の解読力を有する方が対象です。

■申込方法 「支援スタッフ」係まで、電話にてご応募ください。（土日を除く8時30分～17時）

■申込期間 3月1日(金)～15日(金)
＊①・②を兼ねて登録していただくことも可能です。
＊定員は各10名程度（先着順）。

小学生体験講座

◉令和6年度 古文書のみかた◉

古文書解読を基礎から学ぶ「古文書のみかた 初級編」と、読解力を深めるための「古文書のみかた 中級編」を開催します。

《古文書のみかた 初級編》

■開講日時
5月25日(土)、6月8日(土)、23日(日)、7月7日(日)、20日(土)、8月10日(土)の14時～16時

■場所 当館講堂

■定員 30名（応募者多数の場合は抽選）

■テキスト代 500円

■申込方法 ①または②で申込ください。
①彦根市電子申請サービスから申し込む。
②往復はがき（1人1通）の往信の裏面に住所・氏名・電話番号を、返信の宛名面に住所・氏名を明記の上、「古文書のみかた」係に郵送。

■申込期間 4月1日(月)～19日(金)必着
＊受講の案内は、5月2日(木)以降に通知。

■その他
「古文書のみかた 中級編」の開催は8月から11月、募集は6月の予定です。

侍中由緒帳

◉彦根城博物館友の会 会員◉

「彦根城博物館友の会」に入会して、歴史・文化との出会いを楽しみませんか。

■会員特典
①彦根城博物館の常設展ほか、展覧会が観覧できます。②友の会ニュースや博物館だより等をお送りします。③友の会主催の講演会や現地研修等に参加できます。

■会員期間 入会から令和7年3月31日まで

■年会費
一般会員 2千円
ジュニア会員（小・中学生） 1千円
賛助会員 1口以上（1口：1万円）

■入会方法 当館受付にある入会申込書をご利用ください。（郵送可能・要問い合わせ）

■問い合わせ先
彦根城博物館友の会事務局（中野）
＊友の会専用電話 0749-47-5787

Hikone Castle Town 彦根城を世界遺産に

編集・発行
彦根城博物館
〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町1番1号
TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520
https://hikone-castle-museum.jp/